

高岡教区の支援活動（１）

4月1日～3日に東北教区ボランティアセンターに第1次支援隊を派遣し、状況調査をするともに、2トントラックをレンタルし、南三陸町に食糧と雑貨の支援物資を搬送。



南三陸町の光景



志津川病院。避難誘導中の看護師4名、患者67名が津波に飲み込まれた

5月6日～9日にかけて東北教区ボランティアセンターに第2次支援隊を派遣し、2トントラックにて食料品を運び、津波により被災した石巻市称法寺の流入物の撤去作業に従事。



石巻市称法寺境内



称法寺裏にある墓地 ほとんどの墓石が倒壊

6月28日～7月1日にかけて東北教区ボランティアセンターに第3次支援隊を派遣し、七ヶ浜海水浴場、及び石巻市の称法寺で流入物の撤去作業に従事。



七ヶ浜海水浴場



上の写真と同じ称法寺の境内

(2)

教区内外の激甚災害に迅速に対応できる体制作りのため、災害対策委員会の下部組織として「災害救援活動専門委員会」を設立。

災害ボランティアの募集と支援情報の共有のため、登録制の「災害支援ネットワーク」を立ち上げ。

10月11日～14日にかけて東北教区ボランティアセンターに第4次支援隊を派遣し、仮設生活支援のため、福島県内の仮設住宅の状況を調査。

東北教区相馬組寺院からの要望を受け、支援物資として富山県産コシヒカリを募集、当初1tを目標としていたが、教区寺院・各教化団体・有志より総計で6.7tを超える支援米が寄せられる。



門徒推進員が5キロごとに袋に詰め替え



仕分けされた6.7トンの支援米

11月18日～19日にかけて福島県相馬市・南相馬市に第五次支援隊を派遣し、相馬組寺院に支援米を搬送、寺院を通じて避難中のご門徒にお米をお届けいただく。



相馬組勝縁寺にて



南相馬市沿岸部にて。滑川から移住してきた方たちとその子孫が住んでおられたという集落跡。集落の建物は全て流され、基礎のみが残る。カーナビはここを郵便局と示した。

(3)

12月25日～27日にかけて福島県福島市松川町第一・第二仮設、お年寄りや子供が避難生活を送る松川町吉倉宿舎に第6次支援隊を派遣し、餅つきをして、鏡餅を配布するとともに、ぜんざいの炊き出し。



吉倉宿舎にて餅つき



つきあがった餅は鏡餅に



松川仮設にて餅つき



きなこ餅や餡子餅を作る

吉倉宿舎自治会が企画した、仮設住宅でのひきこもり防止用にタオル細工の製作と販売を行う「ありがとういたてタオル」に協力するため、「生きがい支援プロジェクト」として材料となるタオルと購入希望者を募集。材料のタオル4000枚のご協力と3046枚のご注文を頂く。



製作の様子



ありがとういたてタオル

2012年2月23日～25日にかけて東北教区ボランティアセンターに第7次支援隊を派遣、仙台市若林区にて津波による塩害土壌の入れ替え作業に従事。

(4)

2012年3月11日西本願寺高岡会館礼拝堂にて東日本大震災一周忌法要を勤修。各組からの結衆が阿弥陀経をお勤めし、太田浩史氏(大谷派高岡教区)の法話、太田氏と織田委員長・濱野相談員を交えてのパネルディスカッション。約150名の参拝があった。

2012年3月29日～31日にかけて福島県福島市の吉倉宿舎と松川第2仮設に第8次支援隊を派遣。高岡龍谷高校が集めた図書1200冊余りを贈呈し、本棚を作成。



本に集まる子どもたち



本棚を作成しミニ図書室に

2012年5月22～25日に東北教区ボランティアセンターに第9次支援班を派遣、田んぼ内の流入物の撤去作業や除草作業に従事。



2012年7月教区会議員、各教化団体長、組長など教区役職者22名が状況把握のため福島県及び宮城県にて現地研修。



福島復興宗務事務所にて現地の状況を聞く



300人超の遺体が発見された仙台市若林区荒浜

(5)

2012年8月28日～30日にかけて高岡龍谷高校生徒とともに吉倉宿舎に図書を搬送、また、東北教区ボランティアセンターにて田んぼ内の瓦礫の撤去作業を行う。



図書の入れ替え作業



土中のガラス・金属片を取り除く

2012年11月、昨年につき、教区内から募集した支援米6,8トンを相馬組寺院の協力を得て避難生活中の方にお届けする。また、その内1トン余りを吉倉宿舎と松川第2仮設に搬送。



寄せられた支援米



門徒推進員が5キロ袋に詰め替え



相馬の皆さんにお届け

2012年12月25日から27日にかけて第11次支援班を派遣。吉倉宿舎、松川第2仮設にて餅つきと雑煮の炊き出し。



餅つきの様子



雑煮を食べる



もち米を蒸しているところ



鏡餅と雑煮を配る

(6)

2013年2月21～22日にかけて福島県南相馬市・二本松市にて聞き取り調査。

30キロ圏外ではあるが放射線量が高い二本松市でもすでに子どもたちに健康被害(尿からセシウム、甲状腺異常)が出ているとのことであった。

(南相馬市での聞き取り)

- ・「南相馬市では農業や漁業をしていた人は自治体の用意した日当8千円あまりの田んぼの瓦礫撤去作業・海の瓦礫撤去作業でなんとか収入を得てまいりましたが、しかし既に年度内の予算を使いきってしまったため、新年度になるまでその仕事もない状態です。」
- ・「徹底的に汚染土を取り除いた田んぼなら大丈夫ではないかと、試験的に米を作ってみました。基準値を超えるセシウムが検出されました。土壌の入れ替えをしても、用水が汚染された土を他から運んできてしまうからではないかと考えられています。」
- ・「放射能汚染に対する考え方や補償金の問題によって、地域のコミュニティも家族もバラバラになるうとしています。今後のことを考えると本当に難しい、難しいとしか言えない状況です。」

(二本松市の真行寺幼稚園に通う園児のお母さん方から聞き取り)

- ・「私の住んでいる二本松市は福島原発の30キロ圏外で除染事業の対象外ですが、放射線量が他の地域よりも高いので、除染作業を自分たちでやっています。しかしそれでも数値が高いので、子どもがホームステイ事業などで家にいない時の方が安心できるような状態です。」
- ・「あの原発事故が起こった直後に子ども二人を福岡県に避難させましたが、子どもが『どうしても帰りたい』と頼むので、結局1か月ほど福島に帰ってこさせました。でも私のその判断のせいで子どもを被曝させてしまいました。二人の甲状腺にはすでに異常が発見されています。そのことが私の重荷となっています。」
- ・「少しでも我が子を被曝させまいと、食料品の選択や生活に極力気を使ってきましたが、うちの子の尿からもセシウムが検出されてしまいました。こういう話をすると、『福島から出ていけば済む話じゃないか?』とよく言われます。だけど人間は故郷にいろいろなものを抱えています。単純に天秤にかけて、じゃあ出ていくという選択はできないと思います。だけどその一方で、『私たちがここを離れられないせいで子どもを被曝させ続けている』という罪悪感とともに私たちは生きています。今福島に残っているお母さんたちはその板挟みになっています。」
- ・「福島の農産物は汚染のリスクを抱えています。だけど今まで農業に誇りを持ってやってきたじいちゃん・ばあちゃんはそれでも米や野菜を作っています。テレビでは安全と繰り返し言っていることもその一因です。だけど小さな子どもを持つ若夫婦は決して食べようとしません。『孫に食べさせよう』と野菜や米を作っても全部捨てられてしまいます。今、福島の家には2つの炊飯器があります。一つはじいちゃん・ばあちゃん用、もう一つは若夫婦と孫用。じいちゃんたちは自分で作った米を食べて、若夫婦と孫は県外産の米を食べています。そんな状況では立ち直る気力が湧くはずありません。」
- ・「3つになる娘が、今年の七夕の短冊に書いたお願いは『ほうしゃのうなくなれ、げんぱつなくなれ』でした。3つの子どもに放射能が何か、原発が何かなんてわかるはずがない。だけどこの2つがみんなを苦しめているんだ、だからなくなってほしいとお願いした。3つのこどもにそんなことを七夕で願わせるような状況が今の福島の現実なんです。」

(7)

2013年3月11日、西本願寺高岡会館にて東日本大震災三回忌法要を勤修。

140名あまりが参拝。東北教区相馬組からのビデオメッセージを流すとともに、教区内で支援活動に取り組む5名の方の取り組み報告を行った。



法要の様子



支援活動報告

②1 2013年5月14～15日、今後の支援活動についての打合せのため福島県に人員を派遣、吉倉宿舎、松川第2仮設、相馬組勝縁寺にてホームステイや支援米などについて打合せ。

②2 2013年10月30～11月1日、福島県南相馬市小池長沼応急仮設・勝縁寺にて蕎麦打ちと蕎麦の炊き出し。計260食あまりを提供。また、勝縁寺では門徒さんとの交流会も行った。



仮設でのそば打ち



勝縁寺ご門徒との交流会

②3 2013年11月1日～11月4日にかけて相馬支援米を募集し、昨年を上回る7.1トンが集まった。米は5キロ毎に仕分けされ、相馬組寺院を通じて避難生活中の門信徒に届けられた。



仕分け作業



仕分けされた支援米

(8)

②4 2013年11月3日福島第一原発事故により全村避難中の飯舘村の青年の方々9名が、支援米の仕分け作業のお手伝いのため訪問。それに併せて交流会を開催し、報道されない未だ緊迫した現地の状況をお聞きした。



仕分け作業を手伝う飯舘村の青年たち

交流会の様子

(交流会で報告された内容)

- ・「天皇皇后両陛下が飯舘村を訪問され、その模様が新聞やテレビで報道されましたが、そのことによって『陛下が訪問されているなら、飯舘村はもう大丈夫なんだ』というイメージが広がりました。事実、『飯舘村はもう大丈夫なんですよ?』と言われることも珍しくありません。しかし、村の九十七%は未除染のまま、未だに放射線量が高く、人が住める状態ではないのが実状です。」
- ・「村では飯舘牛というブランド牛を育てていました。牛や牛舎は村民の誇り・命といっても過言ではありません。私自身も村で管理していた牛舎で働き、酪農家を志していましたが、今回のことで牛を全て処分しなければならず、夢を断たれ、職も失ってしまいました。しかし、何より許せないのは、村民の誇りであった牛舎を、国が勝手に汚染された草木や藁を運び込む集積場として使ったことです。恐らくは飯舘村を汚染土壌や瓦礫の処分場にする前提だったのでしょう。職を失った今は『飯舘村見守り隊』という自警団ボランティアの事務局をしています。未だに無人の村に泥棒に入る者が後を絶たないからです。」
- ・「民間の業者が無許可で、村内で汚染瓦礫用焼却炉の実験をしています。そのことによって村がより汚染されたとしても『どうせ汚染された村だからかまわない』というつもりです。」
- ・「アパートやマンションなどの『見なし仮設』に避難している方たちが、大家から契約更新を断られるケースが相次いでいます。そのような『見なし仮設』は県から家賃が支払われているのですが、振り込みが半年に一度という形式のため、毎月の現金収入が欲しい大家側に迷惑がられるからです。いくら県側に改善を陳情しても未だに聞き入れてくれません。」

寺族青年会の支援活動

6月1日～3日にかけて東北教区ボランティアセンターに第1次支援隊を派遣し石巻市称法寺にて流入物の撤去作業を行う。



称法寺裏の墓地



称法寺周辺の風景

9月13日～15日東北教区ボランティアセンターに第2次支援隊を派遣し流入物の撤去作業を行う。



排水溝に詰まった汚泥を取り除く作業



称法寺墓地、当初よりもだいぶ片付いている

2012年4月1日～3日にかけて東北教区ボランティアセンターに第3次支援隊を派遣、被災し破損した家屋の解体作業を手伝う。



2012年9月9日にチャリティーバザー、ダーナ・バザーを開催し、収益金を復興支援団体に寄付。

2012年9月23日～25日にかけて東北教区ボランティアセンターに第4次支援隊を派遣し、被災家屋の片付け作業に従事。



2013年7月1日～3日にかけて東北教区ボランティアセンターに第5次支援隊を派遣し、田畑の土壌中の流入物の撤去作業、及び流入物として発見された写真の洗浄ボランティアに従事。



土を掘り起こし、ガラス・金属片などを手で取り除く

流入物の中から見つかった写真を洗浄する
写真は落し物として、持ち主が現れるのを待つ。

2013年9月18日～20日にかけて東北教区ボランティアセンターに第6次支援隊を派遣し、仙台市若林区にて草刈り・土壌改良作業に従事。



寺院女性会の支援活動

2011年9月14日から16日にかけて有志3名にて相馬組勝縁寺・宮城組明観寺の2か寺を訪問。また、東北教区ボランティアセンターでの活動で仮設住宅で茶話会活動を行う。

「ありがとういたてタオル」に協力するため、「生きがい支援プロジェクト」として材料となるタオルと購入希望者の募集に会を挙げて協力。

2012年10月、福島県の小学校に野菜・みかんを計ダンボール19箱、チューリップの球根計800球を送る。

飯舘村の方との文通プロジェクトを実施。文通を希望された方と手紙で交流。

2013年9月、前年度に引き続き、福島県飯舘村の小学校3校に野菜・みかんを計ダンボール19箱、チューリップの球根計800球を送る。また、支援活動予算の確保のため、今年度から1か寺あたり1,000円の支援金を集める。

仏教婦人連盟の支援活動

2011年9月26日～30日にかけて岩手、宮城、福島の県庁を訪問し仏婦連盟で集めた義援金300万円余りを寄付。また、東北教区ボランティアセンターの活動に参加し仮設住宅で茶話会活動を行う。

「ありがとういたてタオル」に協力するため、「生きがい支援プロジェクト」として材料となるタオルと購入希望者の募集に会を挙げて協力。



吉倉宿舎でありがとういたてタオルの作成のお手伝い

2012年10月29日～31日、仏婦独自で集めた支援米計1トンを、津波被害が深刻であった仙台市閑上地区の箱塚桜仮設住宅・愛島仮設住宅を仏婦執行部が訪問しお配りした。



支援米を配る



一軒一軒訪問し、支援米をお届け

2013年9月29日から31日にかけて支援隊を派遣し、前年度に引き続き仏婦独自で集めた支援米を、津波被害が深刻であった仙台市閑上地区の箱塚桜仮設住宅・愛島仮設住宅を訪問しお配りするとともに、東北教区ボランティアセンターを通じて除草作業に参加。



キッズサンガ専門委員会の支援活動

2012年8月9～12日で福島県飯舘村の未就学児童のおられる世帯を対象に「夏休みホームステイ」を開催8世帯18名(内子ども10名、大人8名)が参加された。

2013年8月9日～12日に前年度と同じく「夏休みホームステイ」を開催。吉倉宿舎より、11世帯45名(子ども27名)が参加。

